

平成 29 年度 第 1 回川俣町総合教育会議 議事録

1 日 時 平成 29 年 11 月 24 日（金） 13：30～14：40

2 場 所 川俣町中央公民館 3 階 第 4 会議室

3 出席者

(構成員)	川俣町長	佐藤 金正
	川俣町教育委員会教育長	佐久間 裕晴
	同 教育長職務代理者	戸田 文士
	同 委員	高橋 裕美子
	同 委員	後藤 由美子
	※川俣町教育委員会委員 渡辺 信二は欠席。	

(関係課長等)	川俣町副町長	山田 清貴
	同 総務課長	佐藤 広一
	同 教育次長兼学校教育課長	増賀 喜芳
	同 参事兼子育て支援課長	佐藤 真寿夫
	同 生涯学習課長	山口 功

4 会議の主な内容

○開会 司会：佐藤総務課長

○あいさつ

(1) 佐藤町長あいさつ

日頃より川俣町の教育行政にご尽力いただき、感謝する。震災の影響により、少子高齢化が想定以上に進んでいる。震災以降、川俣町で生まれる子どもは 60 人台にとどまっており、母子手帳の発行部数から予想される本年の出生者は 52 人という報告があったところ。

本年 5 月から実施した町政懇談会では、様々な課題を整理しながら、町民と一緒に考えてきた。少子化ではあるものの、子どもたちが健やかでたくましく、未来に大きく羽ばたいていけるような「人づくり」に力を注がなければならないことを話してきた。

様々な環境要因の変化に伴い、地方教育行政法の改正を踏まえて、一昨年からの総合教育会議を設置してきた。本日は様々な角度から意見をいただきながら、今後の方向付けを考えていかなければならないと考えた次第である。

10 年前には、議論を重ねたのちに、小島小学校、福沢小学校の統合を実施したところである。あれから 10 年が過ぎ、この間の大きな変化を踏まえ、皆さんの意見を聞き、町民に理解をいただける方向で、様々な情報の共有と今後の方向付けを探していきたい。

(2) 佐久間教育長あいさつ

教育委員には多忙の中、参集いただき感謝する。町長から子どもの出生の状況についての話があったところだが、町の「人づくり」はさらに前進させていく必要がある。

来年度の状況だが、飯坂小学校では2・3年生が1クラス、4・5年生が1クラスとなり、「変則複式学級」が2つできてしまう。「変則複式学級」とは、本来は1・2年生、3・4年生、5・6年生が、低学年、中学年、高学年として複式になるべきところ、低学年と中学年、中学年と高学年が1クラスとなってしまうものであり、教員が1名で複数の学年を指導することとなる。

福田小学校は今年度5・6年生が複式学級となっており、変則複式学級よりは指導しやすい状況であるものの、来年度も同様の状況が続く。

一番人数の多い川俣小学校でも、再来年度は全学年が1クラスとなるという状況である。単純にクラスが1つになれば教員が1人になるだけでなく、さらに補正されている教員も減ることとなり、町にとっても子どもの教育にとっても厳しい状況にある。

幼稚園の状況は、今年度で川俣幼稚園が休園となり、川俣南幼稚園は人数が少ないため、2年齢の子どもが1クラスで学んでいる。幼稚園にとって1年間の成長はかなりの差がある。来年度、川俣幼稚園と川俣南幼稚園が統合することによって、それぞれの年齢で学ぶことが可能となるが、将来的には厳しい状況になることは目に見えている。

グローバル化、価値観の多様化等、社会情勢の急激な変化の中で、学校教育は子どもたちにどういう力をつけていかなければならないのか、議論がなされているところである。知識だけでなく、いかなる社会にも対応できる能力を育てていかなければならないということで、新しい指導要領では、戦後の教育の中でも大きな変革を求めてられている。この新しい指導要領はオリンピックの年から全面実施となるが、来年度から前倒しで取り組む動きが出ている。

川俣町でも先進的な教育に取り組む必要があると考えており、本日の新聞にも掲載されたが、来年秋に東京都内で学研を中心とした企業がスタートさせる「英語村」のスタッフと連携し、県の予算を活用し、2日間、全く日本語を使わない英語学習合宿に取り組んだ。英語の授業が1時間増えたことでどれだけ力をつけることができるのか、疑問を持っている。それならば集中してそのような環境の中で学ばせることも必要なのではないかということで、山木屋小学校で実施した。

川俣町の特別支援児の割合は、他の町村より若干高く、手厚い支援も遅れている。今後の学校のあり方の中にも組み込みながら、総合的に考えていくのが良いかと思う。皆さんの意見をいただきたい。

○議題 進行：佐藤町長

(1) 今後の幼稚園、小・中学校のあり方について

【増賀教育次長】（配布物の確認、資料1～5について説明）

【佐藤町長】今の説明について、意見等いただきたい。

【戸田教育長職務代理者】子ども・若者が減っているという現状がある。高校卒業

後、毎年3月、4月にかけて町の人口が減っていく。町として若者を町内に定住化させることが大きな課題。また、PTAとの懇談会では、学校の施設について、統合化が前提とされているために修繕してもらえないという意見もあった。子どもたちには同じ条件で教育させたいが、費用の問題もあり一度にはできない。将来を考えれば統合化は避けられない。新しい校舎、新しい環境の中で子どもたちが育っていく方向性を取らなければならない。

【高橋委員】最終的には統合化はいたしかたない。学力向上のため、「ティーム・ティーチング」の実施を希望する。ぜひ予算化をお願いしたい。

また、認定こども園の開園についても統合化と同時に決断すべき。若い世代は川俣町に呼び寄せるような魅力ある政策を実施してほしい。いまの若い世代は自分の生き方について、以前よりも主張が強いと感じる。インターネットの時代でもあり、Iターン者も見据えた、若い世代にとって住みやすい街づくりを考えていただきたい。

【後藤委員】高橋委員同様、認定こども園は必要だと思う。中学校から幼稚園だけでなく、生まれたばかりの子どもがいる世帯や、子どもが生まれる前の妊婦期間の世帯も巻き込みながら、これから母親になる人へのアドバイスや、ひとり親世帯への支援もできるようになれば川俣町に定住する人も増えるのではないかと思う。子どもたちがどの方向に進むのか、あるいは川俣町に帰ってくる余地があるのかを見極めながら、義務教育である中学校が終わるまでではなく、高校生あるいは成人になり、就職するまでもフォローしていけば、町からの若者の流出も防げるのではないかと思う。

山木屋小中学校について、平成31年度に本当に子どもが戻るのか疑問である。ここ2、3年は通学する子どもがいたとしても、その後のことをどのように考えるべきか。英語合宿の話が出たが、山木屋小中学校でできればいいと思う。そうすれば他市町村からも英語を学びたい子どもが集まるのではないか。特別支援の子どもも一緒に学べる学校ができればいい。

また、自分の子どもが小学校、中学校に通っていたときに感じたことだが、プロ意識からなのか、指導に関して保護者からの意見を聞かない先生もいた。お互いに協力し合い、一緒になって子どもを育てていければいいと思う。

【高橋委員】英語合宿については、持続的に行うことが重要だ。今回実施した山木屋小学校以外の子どもたちにも平等の機会を設けてほしい。毎日英語を使うきっかけがあればいい。毎日英語を使えば子どもたちも慣れていく。子どもたちを信じて、英語に慣れさせるプログラムを組んでみてはどうか。

【佐藤町長】本町は特別支援が必要な子どもが増大している。参考となるデータはあるか。10年前は児童数の数%程度と言われていたが、今は学校にもよるが10%程度になっていると聞く。

【佐久間教育長】特別支援学級に入れるかどうかは、最終的には保護者の判断であるが、大部分は理解をいただき、特別支援学級に入っている。かつては偏見があり、特別支援学級へ入れることに抵抗があった。本来であれば「特別支援学校」への入学が望ましいが、川俣町にはなく、福島市にはあるものの、送迎が必要なため、家庭の事情で入れず、やむを得ず町内の学校に入っている現状もある。

【高橋委員】特別支援が必要な子どもが一般のクラスに入っている場合、学力考査の見方にも影響が出ている。数字だけで見ると他の学校よりも低く見られ、子どもも保護者も自信を失くしてしまうのではないか。学校のスペースの確保も大変であると思うが。

【佐久間教育長】富田小学校ではスペースがなく、保健室を半分に区切って使っている現状がある。各学校とも子どもが減っており、教室が空いていると思われるかもしれないが、実際には全く空きがない。

【佐藤町長】様々な意見をいただいたが、それらの現状・課題から、今後の小中学校の再配置に向け、資料５のとおり、教育委員会と並行して「川俣町小中学校等再配置計画策定委員会」を設置することを考えている。皆さんの意見をいただきたい。

【戸田教育長職務代理者】策定委員会の構成メンバーについて、一般公募の委員を入れてもいいのではないか。

【佐久間教育長】子育て関係の委員会には一般公募の委員が入っている。来年度、「子育て世帯包括支援センター」を立ち上げる予定。また、川俣町の子どもたちにとってどういう教育環境がベストなのかを考える中で、昨年、飯坂小学校を「コミュニティスクール」に指定した。地域とともにある小さな学校を、地域がどれだけ支えていくことができるか、共同的に取り組んでいるところ。地域の意見を取り入れ、町全体で考えていくために委員の公募も良いと思う。

【高橋委員】公募には賛成する。

【後藤委員】公募には賛成する。子育て世代の方が委員に入れば良いと思う。

【佐藤町長】それでは策定委員会の構成メンバーに、子育て世代を対象として、一般公募の委員を加えるという方向で進めたい。細部については事務局で進めさせていただきたい。その他についてはどうか。

【高橋委員】構成メンバーが子育て世代の意見を吸い上げられるかが重要。単に策定委員会に集まれば良いというわけではなく、策定委員会の前段として、子育て世代の意見を聞くような組織体制が必要。

また、要綱のタイトルについて、「再配置」という表現は統合ありきのように聞こえる。

【佐藤町長】「再配置」という表現は使わず、本日の議題のタイトルのように、「小中学校のあり方検討委員会」のような形にしたい。なお、この策定委員会は議会の議決を経た方が良いかと思うがどうか。

【増賀教育次長】議会への説明は必要だと思うが、要綱のため、議決は不要。

【副町長】構成メンバーに議会議員を入れる必要はあるか。議会への説明の際に、そのことを検討したかどうか問われる可能性もある。議会事務局の中では、このような委員会に議会議員は入らないということで、意思統一をしているところではあるが、意見をいただきたい。

また、学校の再配置について、山木屋の小中一貫校のように、小学校と中学校を一貫校としてまとめることも考えられるかと思うが、それについても意見をいただきたい。

【佐藤町長】議会は独自で協議・調査するためにあるものとする。お互いに情報

交換をしながら平行して考えていく方が良いのではないか。

小中一貫校については、全体の課題の中に含まれると考えれば良いのでは。後藤委員の発言にもあった、山木屋小中学校の課題も見えてくると思う。

【高橋委員】これからはコミュニティスクールの役割が大きくなる。小中一貫校を考えながら、小学校と中学校の交流も今後のあり方の中で考えていければと思う。

【佐久間教育長】年々急速に子どもが減少している現状がある。1対1の学びは塾でもできるが、学校という集団の中で学ぶということは、他者の知恵を得たり、自分の意見を他者へ反映させたりといった見えない相乗効果がある。授業は大人数であるほど、多くの多様な考え方が出てくる。町長にはある程度先までの見通しを持ち、スピード感を持った対応について指示いただいている。

【佐藤町長】策定委員会と並行して、町部局と教育委員会とが連携して、情報交換・意見交換をしながら進めていきたい。

様々な意見をいただき、今後の幼稚園、小中学校のあり方について、概ねの方向性は決まった。今後、事務的な整理を進めていきたい。

(2) その他

【佐藤町長】その他として、皆さんより何かあるか。

【戸田教育長職務代理者】飯坂小学校がコミュニティスクールとして定められているところだが、今後、他の小学校でも取組む予定はあるか。

【佐久間教育長】地域と小学校が離れていく現状の中で、文科省ではコミュニティスクールを増やしていく動きがある。川俣町は「学校支援地域本部事業」を県の中でも率先して行ってきた。各小学校で地域の方々が様々な学校行事に参画している。飯坂小学校でのコミュニティスクールの取組の様子を見ながら、「学校支援地域本部事業」との比較をしつつ、良い取組であればすべての学校に広げたい。

○閉会 司会：佐藤総務課長